

漆沢の池

(うるしざわのいけ)



ため池全景



ため池近景

ため池の概要

ため池の所在地

石川県七尾市

ため池の特徴

漆沢の池は、享保十年(1725)に築かれた周囲2kmの能登最大級のため池で、築造から350年以上を経た今日も50haの水田を潤しています。

深刻な水不足に直面していた十村役(とむらやく)の北村源右衛門平内が、漆沢の谷間に堤を築くことを決断しました。高度な技術を要する大工事で、平内氏の並々ならぬ努力と地元農民の3年9カ月 に及ぶ苦労の末に完成しました。

当時の様子は、かつおきんや氏の著書「能登のお池づくり」として1冊の書籍にもなっています。

完成後は新田開発が進み、米の収穫が格段に増えました。当時「三階や極楽、般若野地獄、並ぶ池崎鬼が住む」(三階は地元の村名、般若野と池崎は近隣の村名)と唄われた程で、平内氏の功績を称え「治水功績碑」が建立されました。

今も地元では「お池」と呼ばれて親しまれ、毎年秋祭りには豊作を感謝して獅子舞が奉納されます。

自然環境も豊かで、池にはコイ、フナ、ナマズ、タナゴ、シジミなどの多様な魚類が生息し、冬になるとカモなどの渡り鳥も飛来します。

またサワギキョウ、ハス、ヒシが生育し、食虫植物のモウセンゴケ、タヌキモも見られます。

関連情報

石川県土地改良事業団体連合会ホームページ

<http://midori-net.jp/mame/yousui13.html>